■発行・編集／世羅町議会議長　奥田　正和　■事務局／広島県世羅郡世羅町大字西上原一二三番地一　☎0847・22・4511

元気な人紹介

世羅の文化に貢献したい

ふるさと世羅からの飛躍

㈱リタコーポレーション
代表取締役　中元　紀子さん

中元さんは、福山で生まれ、幼年期を親の実家から、伊尾小学校へ入学し2年生まで通った。

小さい時から絵や文章を書くのが好きで、デザインを学び、20歳の時、写真と出会った。以後5年間スタジオに入り無我夢中で写真と過ごした。

その後、尾道の人々の生活を撮るため、5年間尾道に移り住んで写真を撮った。そこまでしないと、本物は撮れないと思った。

一つの区切りがついたので、世羅に帰った。この田舎、世羅を拠点に、激しく大胆に行こうと思っている。カメラは、入り易いが、奥は深い。カメラを通して会話があり、出会いがあり、交流がうまれる。

力のある被写体を求めて、動かないと良い写真は撮れない。固定概念を捨て、想像・ストーリー・空想など豊かな感性が、感動する写真を生む。日々、感性を磨くことが、作品に命を与える。

今は、国内だけでなく、海外も視野に入れて活動を始めた。しかし、世界の写真事情は厳しい。困難に挑戦することにやり甲斐を見出し、意識を高く持って一歩前に進みたい。

これからの目標は、ふるさと伊尾にコミュニケーションを生かした写真教室を作りたい。学ぶ場所があれば、交流の輪が広がる。世羅には、歴史・自然・花の観光・新鮮でおいしい食べ物など豊富。この財産を礎に世羅の文化を高めたい。

まずは、町とタイアップして写真教室を開催する。

「世羅の町から写真を通して、幸せを発信したい」と話された。

福田義人

尾道てっぱん談義トークショー

表紙紹介

H22年度末で、地域活動の拠点であった、町内8小学校が2校に再編統合された。多くの地域で歴史の重みを感じながら、閉校行事と卒業式が開催された。

表紙は、津久志小学校最後の2人の卒業生を送るシーン。退場する2人に会場の皆さんのトンネルにより卒業生を見送った。

編集後記

今冬の豪雪、降灰被害、鳥インフルエンザなどが各地で相次いだ。

とりわけ「東日本大震災」は、未曾有の国難ともいうべき災害である。

『こころ』はだれにも見えないけれど『こころづかい』は見える。『思い』は見えないけれど『思いやり』はだれにでも見える…。

テレビから毎日何十回となく流れた。宮澤章二さんの詩「行為の意味」である。

宮澤さんは『こころづかい』も『思いやり』も、人に対する積極的な行為だから〈見える〉とうたっている。

日本中や世界の各地から『こころづかい』『思いやり』が義援金、食料、衣類、毛布など〝カタチ〟となって被災地の皆さんの手に届くようになった。

「国が貧しくなると、理屈が多くなる」といったのは、勝海舟だ。現在がそのとおりで、国民はいいかげんウンザリしている。いま、なによりも必要なのは実行力であり、その積み重ねによる政治への信頼回復である。

「議会」もウンザリされないように頑張りたい。（西田）

議会広報公聴調査特別委員会	委員長／福田　義人 副委員長／松本　秀治 委　員／西田美喜男・徳光　義昭 福田　豪・仙光　保喜

議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は6月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

議員の寄附は罰則をもって禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。年賀状など（答礼のための自筆によるものを除く）を出すことも禁止されています。

PRINTED WITH SOYINK　この広報は、環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。